

サッポロの「巣鴨」「アキバ」に

「サッポロの巣鴨を目指します」。札幌市中央区の二番街商店街振興組合(吉住美理事長、31社)が、元気なお年寄りが集まる東京・巣鴨をヒントに、ユニークな商店街づくりを力を入れている。手はじめは5月3〜6日の「さくら祭り」期間中、お年寄り向けに毎日先着200人に桜モチとお茶を振る舞う。

二番街商店街は、市道西2丁目線の大通から国道36号までの約500㍍。組合によると、一帯は昭和40年代後半まで買い物や娯楽の中心で、「黄金回廊」とも呼ばれた。今も通り沿いの老舗になじみ客のお年寄りが多く集まることから、40年近く商店街で働く佐々木孝雄さん(62)らが「サッポロの巣鴨」を発案した。

街路樹のエンヤマザクラ約40本は例年、道内で最も早い道南と同じ頃に咲くといい、組合は約20年前から「さくら祭り」を開催。今回は「老青年 街へ出よう 語ろう 桜の下で」というサブタイトルも付け、初めてお

二番街商店街 世代間の交流を目指す

年寄りを軸に企画。期間中はバリアフリーの歩道に休憩所を4カ所設けてもてなすほか、スタンプラリーや記念撮影も予定している。組合は昨年9月1、2両日も、アニメ好きやコスプレ愛好家が集まる催し「サッポロマニアックス」を一帯で開いた。沿線にアニメ商品を扱う店などがあることから企画したところ、通行量が通常の週末の2倍、ホームページの閲覧数が6倍になった。同組合青年会企画宣伝委員長、友田治さん(41)は「巣鴨とアキバ(秋葉原)の魅力を兼ね備えた商店街。将来的には、孫と祖父母が水戸黄門の衣装で楽しむような、世代間が交流できる共生の街を目指したい」と話している。

【平野美紀】



思い思いの衣装をまとい、「サッポロマニアックス」に集まった人たち—二番街商店街提供(2012年9月1日撮影)

来月3〜6日さくら祭り